

どんぐり山行通信 第121号

赤岳

(あかだけ 2899m)

2017年7月15日(土)

～7月16日(日)

晴れ 参加者 22名

鶴ヶ島



どんぐり山行会

今年から七月の定例山行が一泊となり、今回は八ヶ岳の主峰赤岳を目指すことになった。参加はビジターの小沼さんを含め 22 名、リーダーは松井さん、サブは佐野さんで事前にいろいろ準備をして下さった。

◆初日は美濃戸口から赤岳鉱泉を經由して行者小屋に向かう予定であったが、渋滞で到着が遅れたため、小屋へ直行することに変更。

今回は山道で長蛇の列にならないよう、3 班に分けて行動することにした。



◆二日目

準備体操後、地藏尾根の道に取り付き登山開始。はじめコメツガなどの針葉樹林帯を進むが、やがて展望が開けるとすでに横岳直下の大同心と同じ高さ

に達し、眼下には赤岳鉱泉も見てきた。

そこからは切り立った急斜面がつづき、はしごや鎖の連続だが展望があつて気分がよい。

岩肌にはハクサンシャクナゲや、ツガザクラ、イワヒゲなどが盛んに咲いている。

◆「地藏の頭」に到達すると、赤岳山頂までは稜線歩きた。赤岳展望荘、次いで赤岳頂上山荘を経て山頂へ到達。

山頂はやや曇りながら、まさに 360 度の展望で、北は蓼科山へと続く八ヶ岳の山並み、西は阿弥陀岳、南は権現岳などの豪快な山容が迫ってくる。

そんな大きな風景の中にも足元にはコマクサやオヤマノエンドウなどが咲き、久しぶりにイワウメ、チョウノスケソウ、ウルップソウ、クモナズナなどにも遭遇した。



赤岳より北方向



◆山頂で班ごとに記念撮影を済ませ、こんどは下山開始。

ガレ場が続く文三郎道の急斜面を行者小屋まで一気に下り、小屋前で昼食をとる。

行者小屋は水が豊富でありがたい。

復路は昨日登った道に戻るが、これがなかなかの長丁場。

最後は喘ぎながら車道を進んだが、濃戸口では今日の登頂を控えていた福手さんが出迎えて下さった。

思わずハイタッチ！



赤岳より西方向

赤岳より南方向



行者小屋前
全員で記念撮影

◆ 帰りのバスは途中「原町八ヶ岳温泉 もみの湯」に寄り、温泉で汗を流した後は一路鶴ヶ島を目指す。境川 SA 付近から大渋滞となったが、それはさておき、全国的には猛暑と豪雨の両極端な天候が続き今回も不安定な天候が心配された。しかし雨に会うことなく赤岳の素晴らしい山岳美を楽しむことができ、幸運に尽きる。準備して下さった役員、リーダーに加え、ドライバー、ガイドさんに感謝。@16500

北市民セ 6:00 → 八ヶ岳 SA 9:55 → 諏訪南 IC 10:10 → 美濃戸口 10:45 着 10:50 発
 → 赤岳山荘 11:50 着 (昼食) 12:15 発 → 行者小屋 15:45
 (二日目) 朝食 5:30 出発 6:10 → (地藏尾根) → 地藏の頭 7:35 → 赤岳展望荘 7:45
 → 赤岳山頂 8:40 着 9:10 発 → (文三郎尾根) → 行者小屋 11:40 着 (昼食) 11:25 発 →
 美濃戸山荘 13:40 → 美濃戸口着 15:00 着 → もみの湯 15:25 着 (入浴) 16:30 発 → 境川 SA
 → 狭山 SA → 北市民セ 21:40
 (南雲記)